

医学教育分野別評価

名古屋市立大学医学部医学科年次報告書

2024 年度

評価受審年度 2019（令和元）年

令和 6 年 8 月



名古屋市立大学

医学教育分野別評価 名古屋市立大学医学部医学科 年次報告書

2024 年度

評価受信年度 2019（令和元）年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準 Ver.2.36

1.使命と学修成果

1. 使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準：適合	
改善のための助言	
なし	
改善状況	
・ 本学の医学部の使命について教授会で改めて確認し、2024 年度のシラバスに明記した。	
今後の計画	
・ 大学の構成者ならびに関係者に使命をより確実に周知示すための取り組みについて 2024 年 4 月から教育改革ワーキングで検討している。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 1-1 名古屋市立大学医学部の使命（シラバスより抜粋）	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学修成果に地域医療からの要請、医療制度からの要請を明確に含めるべきである。	
改善状況	
カリキュラム改革 WG で今後の名市大に必要な教育について議論を行い、令和 4 年改定モデル・コア・カリキュラムで求められる教育を行い、名市大独自に求められる教育について取りまとめた。	
今後の計画	
2024 年度中に「使命・学修成果検討小委員会」を新設する方向性で準備を進めている	
改善状況を示す根拠資料	

- ・資料 1-3-5 カリキュラム改革 WG 提言
- ・資料 1-3-6 2025 年入学者からのカリキュラム(12 月 12 日教授会資料)

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学生の行動規範などを整備し、学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを、より確実に習得させるべきである。	
改善状況	
重要な事項についてはオリエンテーションなど口頭で一度きりの説明では周知効果があがりにくいと考え、剽窃や特別欠席届の取り扱いなど、問題行動を未然に防ぐため動画を作成した	
今後の計画	
学年ラインで全ての学生に周知した	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 1-3-7 重要事項の共有用動画	

1. 使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学修成果と教育プログラムの進行・到達水準に整合性を持たせるべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業時コンピテンシーを達成するため卒業時コンピテンシー・マイルストーンワーキングでマイルストーン（2024 年度版）を作成し、2024 年度の教育内容との関係性を示すマトリックスを策定した。 ・カリキュラム改革 WG を立ち上げ、不足する教育を実施するための議論を行った。 ・分野や診療科に分類されない教育を実践するために<u>医学教育センター</u>を立ち上げた 	
今後の計画	
・マトリックスで十分でない部分について教育を充実させていく。2025 年入学者からは新しいカリキュラムを導入する。従来のカリキュラムを継続する学年についても新しい科目を導入していく。	
改善状況を示す根拠資料	

- ・資料 1-3-1 改訂コアカリ対応医学教育マイルストーン
- ・資料 1-3-2 教育内容カバー率
- ・資料 1-3-3 医学教育センター委員について(2023年10月24日教授会資料)
- ・資料 1-3-4 医学教育センター部門会議 2023年度 (2月28日まで)

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
ディプロマ・ポリシーのみならず、使命や卒業時コンピテンシーの策定についても学生や職員などの教育に関わる主要な構成者が参加すべきである。	
改善状況	
医学研究科長、副研究科長、附属病院副病院長、学生を含むメンバーで本学の使命についての意見交換会を実施した。	
今後の計画	
2024年度中に「使命・学修成果検討小委員会」を新設する方向性で準備を進めている。	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 1-4-1 新しい名市大医学部の使命についてのワークショップ	

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
学修成果について広い範囲の教育関係者から意見を聴取し、議論することで反映することが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム評価委員会の規定を改訂し構成員の見直しを行った。	
今後の計画	
患者や地域住民を含めより広い意見を求めるため <u>医学教育フォーラム</u> の開催を計画している	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 1-4-2 カリキュラム評価委員会、小委員会構成員について(2023年12月12日教授会資料)	

2.教育プログラム

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準：適合	
改善のための助言	
能動的学修は、その方法と学修成果を検証し、学生が自分の学修過程に責任がもてる方法をより多く採用すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年 1 月から臨床実習において学生の学修目標を明確にして学習意欲を高めるため指差し評価表と進捗を示すカードを導入した。学生の入力が 2 ヶ月ほどで減少したため、2024 年 1 月にはシステムを見直すとともに、臨床実習の修了要件に入力情報を元にする要素を加えることとした。 ・ ニュースレターを積極的に発行した 	
今後の計画	
2024 年 4 月に教育改革ワーキングを立ち上げ能動的学修をさらにすすめるための議論を開始した。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 2-1-1 NCU-EPO ・ 資料 2-1-2 臨床実習ニュースレターVol.15 ・ 資料 2-1-3 2024 年 1 月からの臨床実習枠組み ・ 資料 2-1-4 進級・修了要件（形成的・総括的評価） 	

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
学生がキャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有することができるよう、能動的学修をさらに取り入れたカリキュラムを設定することが期待される。	
改善状況	
医学教育センターに学生活動支援部門が設置され、BRJ 活動、PICo プロジェクトなどといった成果外活動や学会発表の支援を行う体制を構築した。2023 年 4 月には 5 名が内科学会で発表を行った。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年には ICLS インストラクター取得を目指す学生を支援する制度を作った ・ 内科学会での発表も継続。より多くの学生に学びを伝えるための報告会を実施している。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 2-1-5 医学教育センター委員について(2023 年 10 月 24 日教授会資料) ・ 資料 2-1-6 2023 レポート（学会参加者レポート） 	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
全学生に医学研究の手法を確実に学ばせるために、「基礎自主研修」の継続的改善を行うべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎自主研修の評価を見直し試行した。ヒストグラム、他診療科における評価の比較等から妥当性を評価し、2024年度には本採用とする。 ・アウトカムとして医学研究の手法の獲得を明記し総括的評価に加えた。 	
今後の計画	
2023年のIR部門からのフィードバックにより、2024年度からは総括的評価についてはルーブリック評価を元にして基礎教授会の合議により決定することとなった（資料2-2-1、資料2-2-2）。これにより、教育内容に対するPDCAサイクルが一回転した。今度もこのサイクルを継続して継続的な改善に繋げていく。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-2-1 基礎自主研修評価表【総括的評価】 ・資料2-2-2 基礎自主研修評価の解析（IR部門）修正版 	

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
<p>EBM教育は各科目の個々の題材とその担当教員にゆだねるだけでなく、体系的なカリキュラムを構築し行うべきである。</p> <p>臨床実習でEBMを十分に活用すべきである。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育センターの部門としてEBMを設置した（資料2-2-3） ・2023年のSDDでEBMのStep4、5を中心に小グループ学習を実施した（資料2-2-4） 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年月、EBM教育を担当している科目担当者が意見交換会を行い、6年一館型教育に向けたカリキュラム設置について議論を開始している（資料2-2-5） ・医学教育センターで臨床実習の中で具体的にどの診療科でEBMを実践するのかなど具体的な協議を行なっていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-2-3 医学教育センター委員にについて(2023年10月24日教授会資料) ・資料2-2-4 SDD4月7日EBMを理解する 	

・資料 2-2-5 EBM 教育会議議事録

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準：適合	
改善のための助言	
社会と医療ニーズの変化に対して 6 年間一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を基礎医学教育に活かすことが望まれる。	
改善状況	
特記事項なし	
今後の計画	
2024 年度中に教育の実施に責任を持つ組織を立ち上げる方針で準備を進めている（資料 2-3）	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 2-3 07.教育組織体制の見直し(2024.8.20 カリキュラム委員会資料)	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
行動科学のカリキュラムについて、統一感をもって系統的に構成し、学生が理解しやすいように実践すべきである。	
改善状況	
医学教育センターの部門として「行動科学部門」を設置し、体系的教育構築に向けて協議を行なった。名古屋市立大学の教育として行動科学の教育目標を規定した(資料 2-4-1)	
今後の計画	
2025 年度には体系的カリキュラムとしての準備を進めている	
改善状況を示す根拠資料	
・資料 2-4-1 行動科学部門会議議事録	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	

<ul style="list-style-type: none"> ・医療社会学等の内容をカリキュラム上に明示し、教育を実践すべきである。 ・学修成果に記載されている国際保健関連の内容をカリキュラム上に明示し、教育を実践すべきである
改善状況
<p>2024年1月～3月の社会医学講座会議で教育内容とコアカリで求められる教育内容の確認を行なった（資料2-4-2、資料2-4-3、資料2-4-4）。</p> <p>国際保健関連の内容については教育に含まれているが学修目標には明記されていない科目があることがわかり、2025年のシラバスで見直すことを確認した</p>
今後の計画
<p>2024年8月に医療法学で求められる教育内容について各科目でカバーできているかどうかの調査を行なった。</p>
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-4-2 第188回医学教育・社会医学講座教員会議議事録案[7] ・資料2-4-3 第189回医学教育・社会医学講座教員会議議事録案[98] ・資料2-4-4 第190回医学教育・社会医学講座教員会議議事録案[27]

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
<p>社会と医療ニーズの変化に対して6年一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学の教育に活かすことが望まれる。</p>	
改善状況	
<p>カリキュラム改革WGでカリキュラム構成について議論を行い、社会科学のカリキュラムについてもより体系的に実施するため、現在4年次で集中している授業を2年次と4年次に分け、スパイラル的な教育を構築することとなった（資料2-4-5）。</p> <p>社会と医療の関わりを学生がより理解しやすくなるよう、患者・家族を中心としたマクロな視点を始点とする教育を試験実施した。この経験を活かして2024年からは新科目「医師になる道」を設置することになった（資料2-4-6）。</p>	
今後の計画	
<p>2025年から行動科学、EBMに関しては6年一貫型カリキュラムとしてシラバスに規定した。</p> <p>医療法学について、必要な法規の教育がどの科目で行われているか調査を行った。</p> <p>全体像について可視化しシラバスに記載する</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-4-5 2025年入学者からのカリキュラム(12月12日教授会資料) ・資料2-4-6 2023年BRJ1年生コース春の香りシラバス 	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
重要な診療科で学生が医療チームの一員として参加する診療参加型臨床実習を十分な期間行うべきである	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療参加型実習を確実にを行うためにカリキュラム改革を行なった。2024年1月からの臨床実習ではCC-1とCC-2に区分し、CC-2では主たる診療科で確実にCCが実施できる体制とすることとした。 ・ チームへの参加を確実にを行うために、新しい臨床ユニット「みどり市民病院・みらい光生病院」を設置した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ CC-2を段階的に拡大し、2026年度には28週（4週*7ユニット）とすることを確認している。 ・ 2024年9月から臨床実習の診療科・部門に対する学生アンケートの内容を見直し、実質的な診療参加をより評価できる仕組みとする 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2-5-1 2024年1月からの臨床実習枠組み 	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
大学病院と学外病院の連携を高め、診療参加型臨床実習に必要な疾患を経験できるプログラムを構築すべきである	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学病院、附属病院、学外病院が適切に連携して臨床実習を実施できる体制を確保するため、臨床実習統括部門（資料2-5-2、2-5-3、2-5-4）を設置することとなり準備会議を開催した。2023年4月には附属病院（資料2-5-5）、10月には名市大病院の関連部門が参加した（資料2-5-6）。 	
今後の計画	
<p>2024年5月の会議からは実習協力施設も参加している。</p> <p>必要な疾患数を確認していくことがカリキュラム評価小委員会で議論された。2025年1月から導入する。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2-5-2 臨床実習統括部門 ・ 資料2-5-3 臨床実習統括部門関係者の定義 ・ 資料2-5-4 臨床実習体制の整備 ・ 資料2-5-5 （議事録）第1回準備会議20230417 	

・資料 2-5-6 第 2 回臨床実習総括部門準備会議議事録

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
(3) プライマリ・ケア実習の期間を十分に確保し、実質化すべきである。	
改善状況	
・ 総合診療科学・総合内科学に宮崎景教授が着任し、プライマリケア教育の見直しを計った。2024 年 4 月から総合診療科の臨床実習で学外病院でのプライマリケア実習を 2 週間行うことになった（資料 2-5-7-1、資料 2-5-7-2）	
今後の計画	
総合診療科の実習が改善されたことにより、現在 6 年生で行なっているクリニック見学型のプライマリケア実習は 2026 年度から 2 年生で実施する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 2-5-7-1 クリクラ オリエンテーション ・ 資料 2-5-7-2 名古屋市立大学医学部 総合診療科・総合内科臨床実習評価表	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習で健康増進と予防医学の体験を十分に確保すべきである。	
改善状況	
特記事項なし	
今後の計画	
2024 年 4 月に教育改善 WG を設置し、この中で具体的な議論を行った。2025 年から名古屋市と協力して住民の健康増進活動に学生が参画する新科目を設置する方向性で議論を行なっている（資料 2-5-8）	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 2-5-8 健康増進・予防医療のカリキュラム案（M4：CHC 実践）	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習開始前に患者接触プログラムや臨床技能教育を体系的に行い、臨床実習の準備教育を拡充することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「CHC 応用」の中で地域高齢者と学生とが対話する科目を設置し実践した。2024 年には全員が参加できるように拡大する。 ・現役学生に対する対応として、2023 年からスチューデントドクターズデイを導入しシミュレーターによるトレーニング教育を行う体制を実践した。 ・2024 年からは1年次（医師になる道：病院実習）と3年次（選択制）に臨床実習を導入した。 	
今後の計画	
<p>低学年での臨患接触プログラムの目的は以下の通り。</p> <p>1年次：多職種連携教育：コミュニティーにおける課題抽出と課題解決活動</p> <p>1年次：臨床実習：外来見学実習での他者理解と臨床実習では医師・患者関係</p> <p>2年次：クリニック実習：地域における医療の役割の理解（2026年導入予定）</p> <p>3年次：臨床実習：診療科での実習。医療安全の理解を共通目標とする（2024年度は選択制、2025年度から必須とする予定）</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-5-9 CHC 応用 2023 年 ・資料 2-5-10 スチューデントドクターズデイ(文科省オンラインシンポジウム資料) ・資料 2-5-11 医師になる道 Step.1（シラバス・予定表） 	

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
社会と医療ニーズの変化に対して6年一貫医学教育カリキュラムを検討し、その検討結果を臨床医学教育に活かすことが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム改革 WG で今後本学に必要な6年一貫医学教育カリキュラムについて検討し、モデル・コア・カリキュラムで求められる教育に対応するための8つの柱、本学独自の学修成果を達成するための5つの柱をたてカリキュラムを構築することを定めた（資料 2-5-12）。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・必要な教育は現在の在校生に対しても順次導入していく。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度入学生からは教養科目を削減し1年次から専門科目を増やすなどカリキュラム構成を大きく変更することを決定している。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-5-12 2025 年入学者からのカリキュラム(12 月 12 日教授会資料)

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
患者安全に配慮した臨床実習を構築しなければならない	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習生に対して、スチューデントドクターズデイ（SDD）で基本的な臨床手技のうち“患者に実施する前にシミュレーターでのトレーニングが必要な手技”のトレーニングを行なっている。SDD ではルーブリックによるピア評価を行い、一定以上の水準に達した学生を認定する仕組みとしている。認定を示すシールを貼ったカードを名札とともに携帯することで、指導医も認定を受けていることを確認することができる ・2024 年度から M4 での新科目「医療安全の視点」を導入した。 	
今後の計画	
2024 年からの臨床実習を開始する学年では SDD の構成を見直し、一部の手技は臨床実習前オリエンテーションでトレーニングを行うこととした。さらに 2025 年から自主を開始する学年では大幅に臨床実習前オリエンテーションの期間を増やしてさらに事前トレーニングの充実を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-5-13 スチューデントドクターズデイ(文科省オンラインシンポジウム資料) ・資料 2-5-14 【書式 1】シラバス医療安全の視点 	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
科目間の水平的および垂直的統合をさらに充実させることが期待される。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム企画・運営委員会の下にカリキュラム改革 WG をおき、新しいカリキュラムについて基礎・臨床医学の教育構成やカリキュラムの内容について協議を行った。WG の提言の中で「教育効果を高めるため、垂直統合を促進し、繰り返し学ぶ(スパイラル型)カリキュラムとする」ことを確認した (資料 2-6-1)。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育センターに<u>水平・垂直統合部会</u>を設置。カリキュラム改革に向けた協議を開始した（資料 2-6-2）。
今後の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年度から新たに M2 と M3 で垂直科目を設置する。水平科目はオムニバス講義形式から PBL 形式に変更する。
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-6-1 カリキュラム改革 WG 提言 ・資料 2-6-2 医学教育センター部門会議 2023 年度（2 月 28 日まで）

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準：適合	
改善のための助言	
医療人育成推進センターなどによる、卒前教育と卒後の教育・臨床実践の間の連携推進をさらに図るべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・スチューデントドクターズデイで附属病院の看護師、薬剤師が手技指導やグループ学修のファシリテーターとして参加する形を実践した（資料 2-8-1）。 ・総合研修センターと協力し、一部の卒前教育に名市大病院の初期研修医が参加することとなった（資料 2-8-2） 	
今後の計画	
2024 年度中に医学教育センター（卒前）と総合研修センター（卒後）の連携協議会の立ち上げを計画している	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-8-1 スチューデントドクターズデイ(文科省オンラインシンポジウム資料) ・資料 2-8-2 初期研修医の卒前教育へのご協力をお願い 	

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム企画・運営委員会における教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが期待される。	
改善状況	

2023年7月には名古屋市民生委員児童委員連盟瑞穂区支部会議に出席し、民生委員会から今後の医学生教育に対する意見を得た。また2024年についても医学生と地域高齢者が交流する企画を継続することについて承認された（資料2-8-3）。

今後の計画

地域や社会の意見をより広く取り入れるため、2024年中に「医学教育フォーラム」の開催を予定している（資料2-8-4）。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2-8-3 令和5年度「医療系学生チーム訪問実習」の実施について（依頼）
- ・ 資料2-8-4 02.名古屋市医学教育フォーラム0712(1)

3.学生の評価

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
技能および態度の評価について評価方法とその有用性を検討し実施すべきである。	
改善状況	
臨床実習でのスキルを評価するために指差し評価表を導入した。	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンプロ報告がなされた学生に対して組織的に対応するため対応フローを策定した。態度評価に関しても数多くの評価を蓄積し、多角的に評価するため、指導医・患者による評価ルーブリックを開発した。それらを実践した。 ・3年生の基礎自主研修で態度を含めたプロフェッショナリズムについて形成的評価を行い総括的評価に含めるカリキュラムとした。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年からのみどり市民病院、みらい光生病院での実習では多職種による評価を形成的・総括的評価に加えることになった。 ・低学年の行動規範について議論を再開した。 ・組織学実習で態度評価についての試行を行なった。2025年からは各学年で評価を実施する科目を定めて実践する予定。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-1-1 基礎自主研修評価表【総括的評価】 ・資料 3-1-2 アンプロ対応フロー2023年3月6日カリキュラム企画・運営委員会で承認) ・資料 3-1-3 再教育実績他者評価 	

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
評価に関わる利益相反を規定として明文化すべきである。	
改善状況	
評価者が利益相反に影響しないことについて明確にする必要がある旨、議論を行った	
今後の計画	
2024年のシラバスには掲載が間に合わなかった。2025年のシラバスに実装する。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-1-4 2023年2月20日令和4年度第12回カリ委員会議事録 	

3 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
評価結果に対する疑義申し立て制度を組織として対応する仕組みを構築すべきである。	
改善状況	
成績に関する疑義申し立てに対してカリキュラム企画・運営委員会でもその内容を把握し、必要時に介入ができるような対応フローを作成した。シラバスにも記載	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 3-1-5 成績疑問票	

3 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
学内で行われるすべての評価に関して評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎自主研修の評価について信頼性・妥当性を IR 部門で検証し統括する基礎教授会に報告した ・ 「教育目標と方略、評価方法の自己点検」は 2023 年度も継続して行った。教育目標に沿った評価が行われていることを確認するとともに、担当教員の意識醸成を図っていく。 	
今後の計画	
2024 年中に <u>学生評価小委員会を設置</u> して学内で行われる全ての評価の信頼性・妥当性評価を実装するための体制を整える。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 3-1-6 基礎自主研修評価の解析（IR 部門）修正版	

3 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準：部分的適合	

改善のための助言
Mini-CEX などを利用して診療参加型臨床実習の評価を確実に行うことが望まれる。
改善状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察評価の文化を醸成するために段階的な対策が必要と考えている。2023 年から臨床実習の観察評価を見直し、指差し評価表を導入した。アンケートの結果、指導医、特に教授、に指導の意識を持ってもらうのに一定の効果があったが、実施 2 ヶ月後までは学生の登録も増加したがその後登録数が減少した。2024 年 1 月の新学年から医行為の実施を臨床実習の総括的評価に加えることとし、学生側からも自らが行った医行為に対して評価を受ける意識づけていく（資料 3-1-7）。 ・ 評価とフィードバックに対する学生の振り返りをニュースレターの形で発信していくことで指導医の意識醸成にも努めている（資料 3-1-8）。
今後の計画
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年中に一部の診療科で mini-CEX の試行を開始。他の診療科にも広めていく。2024 年 9 月から麻酔科で mini-CEX の試験導入を開始した ・ 2025 年からの CC-2 では内科ユニットで mini-CEX、外科ユニットで DOPS を必須にするなど段階的に観察評価の質を高めていく
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3-1-7 進級・修了要件（形成的・総括的評価） ・ 資料 3-1-8 臨床実習ニュースレターVol.15

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
低学年から臨床実習に至る各学年において学修成果を確実に評価していることを示すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバス作成時に学習目標にあった総括評価が行われているか自己点検を実施。カリキュラム評価小委員会でチェックを行なっている（資料 3-2-1、資料 3-2-2）。 ・ マイルストーンに沿った教育がなされているか、カリキュラム評価小委員会で検証しマトリックスを策定した（資料 3-2-3）。 ・ 2024 年のシラバスでは教育内容に合わせてカリキュラムマップを更新した（資料 3-2-4） 	
今後の計画	
不足している教育については今後順次改善していく。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3-2-1 カリキュラム評価委員会評価指標とタスク ・ 資料 3-2-2 カリキュラム評価小委員会議事録 	

<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-2-3 教育内容カバー率 ・資料 3-2-4 カリキュラムツリー

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
形成的評価を確実にいき、学生の学修を促進すべきである。	
改善状況	
・ 形成的評価の実践についてシラバス作成に合わせて調査を行い、カリキュラム評価小委員会でフィードバックを行った。	
今後の計画	
学生評価小委員会を 2024 年中に設置し、形成的評価についても統一した規定を検討していく予定。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 3-2-5 シラバス自己点検に対するフィードバック（抜粋）	

3 学生の評価	3.2 評価と学生との関連
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックをより拡充することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価に対するフィードバックの意識を高めるため 3 年前期までの科目について形成的評価に対するフィードバックの有無について調査を行った（資料 3-2-6）。 ・ 臨床実習における観察評価を促進するため 2023 年指差し評価表を導入した。実施後のアンケートでは、指導医、学生とも臨床実習における評価とフィードバックの意識が高まったとの回答を得た（資料 3-2-7） 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ フィードバックに対する学生・指導医の意識をさらに高めるため、観察評価とフィードバックを臨床実習における診療科の評価アンケート項目に追加することを検討している。 ・ 2024 年カリキュラム評価小委員会の目標を設置。学生評価小委員会を設置し、一定コマ数の科目については形成的評価を必須化するなど議論を行なっていく。 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 3-2-6 シラバス自己点検に対するフィードバック（抜粋） ・ 資料 3-2-7 医学教育学会発表資料 mini-CEX 	

4. 学生

4 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準：適合	
改善のための助言	
入学決定に対する疑義申し立て制度について、成績を開示するのみでなく、疑義に対応する窓口を明示することが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 入試一般に関する問い合わせについては学生課入試係として明記していることを確認した。 ・ 医学部として具体的な問い合わせ窓口を明示することができないか交渉を行なっている。 	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 4-1 令和 3（2021）年度第 11 回医学部入試研究委員会議事録 	

4 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
精神面を含め、学生の健康上の支援について、桜山キャンパスにおける体制を整備すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学の保健支援センターと連携して医学部事務室に隣接したスペースに「保健室」を確保している。看護師の資格のある職員が初期対応することが可能である。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の運用している「保健室」の機能の明文化を進めている。 ・ 精神面を含めた健康上の支援について看護部と協力して設置する方向性で協議を始めている。 ・ 医学部として学生のメンタルを含めた健康管理を行う教員配置について議論を行なっている 	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

4 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準：適合	
改善のための助言	
キャリアガイダンスやプランニングを適切な時期に行うことが望まれる。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育センターにキャリア支援部門を設置した。構成員の見直しを行い学生 5 名を加えた（資料 4-3-4）。 ・「キャリアガイダンスやプランニング」をどのようにカリキュラムに導入していくか議論を開始した（資料 4-3-2）。 ・2023 年入学者を対象に高学年生、卒業生（大学院生）によるキャリア支援レクチャー「医学部の歩き方」を実施した（資料 4-3-3）。 	
今後の計画	
2025 年からは「キャリアガイダンスやプランニング」をカリキュラム教育に実装する予定	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-3-1 医学教育センター20240215 ・資料 4-3-2 医学教育センターキャリア教育部会 2024 年 3 月 11 日 ・資料 4-3-3 医学部キャリア説明会 2024 修正版 	

4 学生	4.4 学生の参加
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
使命の策定に関する委員会、学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。	
改善状況	
名市大医学部の使命について、学生、研究科長、教員が意見交換を行った（資料 4-4）。	
今後の計画	
使命と学修成果を定期的に見直すため、2024 年中に新しい委員会を設置する方向性で議論を行なっている	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-4 使命についてのワークショップ 	

5. 教員

領域 5 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解するために、FD等の質を充実し、教員の参加度を高めるべきである。	
改善状況	
・ 医学教育センターのFD部門を設置した：資料 5-2-1 ・ 2023 年度の FD 実績 資料 5-2-2	
今後の計画	
計画的に FD を実施していくために FD 部門で実施要領を策定中である。	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 5-2-1 医学教育センター委員にについて(2023 年 10 月 24 日教授会資料) ・ 資料 5-2-2 2023 年度実施 FD	

6.教育資源

6 教育資源	6.2 臨床実習の資源
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学生が適切な臨床経験を積めるように、各病院の疾患分類を把握し、臨床実習施設を充実すべきである。	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療参加型臨床実習を安全に確実に実施するため臨床実習統括部門会議を設置した（資料 6-2-1） ・ 学生が経験した症候、基本的な臨床手技、診察手技を収集できる仕組みを開発し、ニュースレターとして積極的にフィードバックを行った（資料 6-2-2）。 	
今後の計画	
2024 年からは附属病院以外の実習協力施設の代表者も参加して議論を行なっている。2025 年 1 月からは疾患についても把握できる仕組みを導入する予定。	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 6-2-1 臨床実習統括部門 ・ 資料 6-2-2 臨床実習ニュースレターVol.15 	

6 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学生の学修を促進するために無線 LAN 環境をさらに充実すべきである。	
改善状況	
附属病院で学生教育に必要な無線 LAN 環境について各診療科・部門にアンケート調査を実施した。	
今後の計画	
アンケート調査に基づき病院で学生が使用できる無線 LAN 環境を整備していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

6 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準：適合	
改善のための助言	
学内の教育専門家をより積極的に活用し、教育技法および評価方法を開発すべきである。	

改善状況
2023年9月に医学教育専門家（医療人育成学分野：恒川常司）が着任した
今後の計画
4月から外部の教育専門家とのアドバイザー契約を行い積極的に意見を求めている
改善状況を示す根拠資料
なし

7.プログラム評価

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを実動すべきである。	
改善状況	
カリキュラム評価小委員会で定期的にモニタリングする指標を定め、評価を行った（資料 7-1-1）。	
今後の計画	
モニタリングの仕組みが構築された指標については規定化していく	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 7-1-1 カリキュラム評価小委員会 2024 年 3 月 23 日	

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
卒業時コンピテンシーを整理・構造化し、学修成果の達成に向かって学生がその能力を段階的に獲得していくことを評価すべきである。	
改善状況	
令和 4 年改訂モデルコアカリキュラムに適合するためにマイルストーンの改定を行った（資料 7-1-2）。	
今後の計画	
学修成果とマイルストーンの関係性の整合性を取るため内容の見直しを行なっている	
改善状況を示す根拠資料	
・ 資料 7-1-2 改訂コアカリ対応 医学教育マイルストーン	

7 プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムとその構成要素、学生の進歩、課題の特定の観点からプログラムを評価すべきである。評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。 ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、長期間で獲得される学修成果について、プログラムを定期的かつ包括的に評価することが望まれる。 	

改善状況
<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価小委員会で評価指標を定め定期的なモニタリングを実施した（資料 7-1-3）。 ・カリキュラムの特定の要素として、基礎自主研修の学修者評価（資料 7-1-4）、臨床実習における各診療科の診療参加度（資料 7-1-5）についてモニタリングとフィードバックを行った。
今後の計画
2024 年にはこれまれの指標やモニタ状況を踏まえ見直し、フィードバックする組織についても規定化を進めている（資料 7-1-6）
改善状況を示す根拠資料
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 7-1-3 カリキュラム評価小委員会 2024 年 3 月 23 日 ・資料 7-1-4 基礎自主研修評価の解析（IR 部門） ・資料 7-1-5 臨床実習ニューズレターVol.17 ・資料 7-1-6 カリキュラム小委員会 2024 年 7 月 22 日

7 プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生および教員からのフィードバックを系統的に収集し、分析し、対応すべきである。 ・系統的にフィードバックを求め、教育プログラムを開発することが望まれる。 	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ランチタイムミーティング」を継続した（資料 7-2-1）。 ・医学教育センターに学生、幅広い教員を含めた構成員とした（資料 7-2-2）。 ・カリキュラム企画・運営委員会に対する学生の参加をより実態を伴うものとするため、一部の議案を覗き基本的に全体に参加する仕組みとした（資料 7-2-3、資料 7-2-4）。 	
今後の計画	
ランチタイムミーティング実施要項を策定する	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・資料 7-2-1 ランチタイムミーティング 2023 年度（2024 年 2 月 15 日分まで） ・資料 7-2-2 医学教育センター 20240215 ・資料 7-2-3 令和 5 年度 第 2 回カリキュラム企画・運営委員会 次第 pdf ・資料 7-2-4 令和 5 年第 3 回カリ委員会議事録(教員のみ) 	

7 プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
使命と意図した学修成果に関して、医療人育成推進センター教育IR部門が学生・卒業生の実績を継続的により広く集積し、分析すべきである。	
改善状況	
意図した学修成果に関してIR部門が附属病院に所属する卒業生と指導医を対象としたアンケート調査を実施しカリキュラム評価委員会に報告した。	
今後の計画	
2024年度にはアンケート対象を拡大して実施する予定	
改善状況を示す根拠資料	
・資料7-3-1 2023年度卒業生調査報告書	

7 プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための助言	
広い範囲の教育の関係者に、課程およびプログラムの評価結果を積極的に開示し、卒業生の実績やカリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。	
改善状況 / 現状	
・カリキュラム評価委員会の規定を改訂し構成員の見直しを行った。具体的には、副研究科長、カリキュラム企画・運営委員、学生代表委員会委員のほか、名古屋市健康福祉局参事を含む外部有識者3名と学生2名を含めた。2023年度はさらに患者・家族と構成員に加えるとともに、卒業生や他大学出身者から意見を得られるよう規定を変更した。	
今後の計画	
患者や地域住民を含めより広い意見を求めるため <u>医学教育フォーラム</u> の開催を計画している	
改善状況を示す根拠資料	
・資料7-4-1 カリキュラム評価委員会、小委員会構成員について(2023年12月12日教授会資料)	

8. 統轄および管理運営

8 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
基本的水準：適合	
改善のための助言	
なし	
改善状況	
名古屋市瑞穂区区役所福祉課と協力して、医学部学生が地域のコミュニティーセンターで独居高齢者と交流を行う実習（CHC 応用）を実施した。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年度は全員が独居高齢者とのコミュニケーションに参加できるように訪問学区を増やして実施した ・ 名古屋市健康福祉局高齢福祉部地域ケア推進課と協力して「名古屋いきいき元気プログラム(複合プログラム)」に学生が参加できるよう調整を行なっている 	
改善状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 8-5-1 令和 5 年度「医学系学生チーム訪問実習」の実施について（御礼） ・ 資料 8-5-2 令和 6 年度「医系学生地域訪問実習」の実施について（御礼） ・ 資料 8-5-3 健康増進・予防医療のカリキュラム案 	